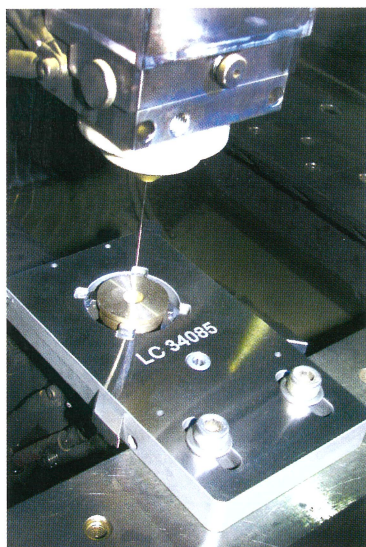


高能率加工で把握の革命

関東技術開発 (本庄市)

金型・工作機械用スクロールチャックの 小型・軽量・高精度品の開発



小型・軽量化した工作機械用スクロールチャック

精密機械部品の加工の際に使われる「工作機械用スクロールチャック」の小型・軽量化を開発。高能率と高精度を実現させ、市場拡大を図っている。

スクロールチャックとは、円形の加工素材を固定し作業位置を決める取り

付け具で「治具(じぐ)」

と言われる。従来は、加工素材を固定する把握力を重視した三つの爪が主流だったため、精度と使い勝手が課題となっていた。この爪を平面型に改良したことで、これまで加工できなかった0.2〜0.3mmの

薄い素材も可能となった。

さらに同じ加工を繰り返す際、これまでの50分の誤差を2分にまで抑えることに成功。ワイヤ放電加工機の高効率化を実現している。受注生産により加工品の大きさにも対応が可能だ。

発想から3年。実用化されてきたのは昨年6月頃から。こうした開発を重ね

メーカーとしての道を歩む

支えには、「下請け企業にならない」という中岡完代表取締役の強い意志と、着眼点とアイデアがある。

「いい仕事をすれば、お客様が喜んでくれる。その笑顔こそが仕事の最大のエネルギー」。そうした達成感が今の製造業に欠けている点だと強調。「達成感こそが人間を育てる」と語る。

【株式会社関東技術開発】

本社は本庄市児玉町飯倉355-15。中岡完代表取締役社長。1980年、東京都稲城市で「中岡技研」を設立。社名改称を経て、92年に本庄市に本社を新設・移転した。多品種、高精度部品加工を中心に新製品の開発・技術提供も行っている。1〜1000個までの特注受注が可能。